

## 「新潟のソーシャルキャピタルを考える会 2016」を開催しました

平成 28 年 2 月 6 日の午後 1 時から、新潟医療人育成センター4 階のホールにおいて、「新潟のソーシャルキャピタルを考える会 2016」を開催しました。

この会は私たちの取り組みのひとつである新潟の中山間地自治体への大規模アンケート調査の、メインテーマであるソーシャルキャピタルについて、その結果報告と知識を深めようというイベントで、今回が 2 回目の開催となります。

一般講演①では、学生による医学研究実習での研究報告として、私たちの取り組みとして総合地域医療学講座でおこなった「豪雪中山間地域における高齢者の生活環境と健康に関する聞き取り調査」、国際保健学教室でおこなった「都市部と非都市部における高齢者のうつ傾向に関連する因子について」、環境予防医学教室でおこなった「魚沼地方でがん死亡率が低いのはなぜか？ -大規模コホート研究ベースラインデータを用いた魚沼と村上の比較研究-」をそれぞれ発表してもらいました。魚沼地方は、ソーシャルキャピタルが高い、塩分摂取量が低い、がん死亡率が低いなど、これからの新潟の健康保険施策にすぐに役立てられそうな興味深い結果が発表されました。



一般講演②では、当センターの鈴木翼先生が、私たちの取り組みである中山間地域での大規模アンケート調査の成果の 1 つとして、中山間地域の高齢者の冬季移住意向と健康状態の関連性について、ソーシャルキャピタルが高いことは冬季移住をとどまらせる要因となると論じました。国際保健学分野准教授の菅蒲川由郷先生は、新潟市での大規模アンケート調査 JAGES2013 の結果を用いて「見える化」か

ら「できる化」することにより新潟市の健康施策の提案をしていただきました。新潟市福祉部地域包括ケア推進課課長の佐久間なおみさんから、新潟市の地域での支えあいの仕組みづくり、地域包括ケア推進モデルハウスの立ち上げについてご紹介いただきました。



教育講演では、新潟市の支えあいのしくみづくりアドバイザーの河田瑛子さんから、河田さんがこれまで取り組んできた「うちの実家」の様子やその成果、地域包括ケア推進モデルハウス「実家の茶の間」の概要、その思いについてお話しをいただきました。



特別講演では、千葉大学予防医学センター 社会予防医学研究部門および千葉大学大学院 医学研究中核研究部門環境健康科学講座公衆衛生学教授の近藤克則先生から、ソーシャルキャピタルの見える化の取り組みについて、新潟市や十日町市など、わたしたちが取り組んだデータも含めてたくさんの実例をお示しいただき、見える化することによるその効用をご提示頂きました。

健康指標としてのソーシャルキャピタルの重要性、有効性を再認識できた会でした。私たちのデータも自治体の健康施策に反映されてきており、これからも有効なエビデンスを提供できればと考えております。